



校長のつぶやき

只今、令和8年9月4日、運動会が閉会した直後の校長室です。窓のカーテンを開けると、家路につく子どもたちと保護者の皆さんの姿が見えます。どの顔にも、心地よい疲労感とともに、やり遂げた笑顔があふれています。この運動会が無事に、そして大成功のうちに終えられた何よりの証拠だと、胸をなでおろしているところです。運動会直後のグラウンド上空は鉛色の深い雲に覆われ、今にも雨が降り出しそうな空模様ですが、子どもたちの熱気が雨雲を押しとどめてくれたかのようです。

さて、運動会を終えた今、私の心を満たしているのは、第一に「安堵（ホッとした気持ち）」、第二に「深い感動」です。この「ホッとした気持ち」を少し振り返ってみると、その大部分は「天候がもってくれたこと」、そして「子どもたちに大きな怪我がなかったこと」にあります。そして残りのわずかな部分は、表現（踊り）のプログラムで、なぜか鳴らなかった BGM が無事に復活したことにあります。本当に胸をなでおろしました。行事の際にいつも晴天を呼ぶ人のことを「晴れ男・晴れ女」と言いますが、本校（JSB）にもそんな強力な「晴れ役」がいるようです。それも、去年の「グリーンスクール（小1～3）」にも参加していた児童の中にいるに違いありません。なぜなら、去年のグリーンスクールでは、行きのバスが会場近くのインターチェンジを降りるまでワイパーが高速で動くほどの豪雨だったにもかかわらず、会場に到着した途端、一切雨が降らなかったという不思議なことがあったからです。そして今日も、午後2時を過ぎた今、外は激しい雨が降っています。本校に素晴らしい「晴れ男・晴れ女」がいることは、どうやら間違いなさそうです。



一方、「雨降って地固まる」ということわざがありますが、今回の BGM のトラブルは、まさにこの言葉通り、怪我の功名とも言える素敵なドラマを生み出してくれました。音楽が始まらない間は、教職員一同、肝を冷やしました。保護者の皆様もハラハラされたことと思います。しかし、そのピンチを救ってくれたのが、中学部の生徒たちでした。彼らの機転の利いた臨機応変な対応と、場を盛り上げる卓越したマイクパフォーマンスは、本当に見事でした。私たち教職員も深く救われましたし、ご来賓の方々からも「JSB の中学生は本当に多才で頼もしいね」とお褒めの言葉をいただきました。保護者の皆様も、きっと彼らの頼もしい姿に目を見張られたのではないのでしょうか。

次に「感動」に目を向けてみましょう。開会式でも子どもたちに話しましたが、私は「感動とは、一生懸命に取り組む姿から生まれるもの。今日の運動会で、たくさんの感動を生み出してほしい」と伝えました。その言葉通り、今日の子どもたちからは、数え切れないほどの感動をもらいました。低学年の「玉入れ」や「宝島」で見た理屈抜きの可愛らしさ。そして、高学年の「エイサー」や「よっちょれ」「One team」で見た、魂まで届く力強い表現。どれをとっても本当に素晴らしく、今回の運動会が「大成功」であったことは、どなたの目にも明らかだったのではないのでしょうか。

最後になりますが、この運動会の成功の裏には、本当に多くの「支援」「協力」「支え」がありました。今年からの「金曜開催」に合わせて、お仕事を調整し休暇を取って駆けつけてくださった保護者やそれを快く理解していただいた企業の皆様。掲示板の得点が逆になっていることにいち早く気づき、自主的に対応してくれた児童たち。そして、子どもたちの安全のために周辺をパトロールして下さった警察署のお巡りさん。挙げればキリがないほど、多くの方々に支えられた運動会でした。感謝の言葉もございません。本当にありがとうございました。皆様のおかげで、温かく、とても素敵な運動会になりました。この一体感と勢いを大切にしながら、学校は次の行事である「合唱祭」へと向かいます。今度は子どもたちがどのような歌声で、私たちに新たな感動を届けてくれるのか、今から楽しみでなりません。